

厚生労働科学研究費補助金（がん対策推進総合研究事業）

小児がん拠点病院等の連携による移行期を含めた小児がん医療提供体制整備に関する研究

分担研究報告書

「小児がん拠点病院による小児がん医療提供体制の整備」

研究分担者 家原 知子

京都府立医科大学大学院 医学研究科 小児科学・准教授

研究要旨

2019年度秋には小児がん連携病院の指定がなされたところであるが、当施設と小児がん連携施設と適切に疾患の治療体制が構築できているかを、2016年から2018年の診療実績の解析から考察した。小児がん拠点病院では、集学的治療を行う固形腫瘍および再発症例を中心に診療を行い、小児がん診療を行う小児がん連携施設では、治療法が確立し、血液腫瘍医のみでの診療が可能な初発血液腫瘍を中心に診療を行う体制が、年毎に確立してきていることが確認できた。今後もこの連携体制を継続強化していきたい。

A. 研究目的

2019年度秋には小児がん連携病院の指定がなされたところであるが、その目的は、小児がん拠点病院と小児がん連携施設との適切な診療体制の構築である。実際に指定前から構築ができているかを検討する。

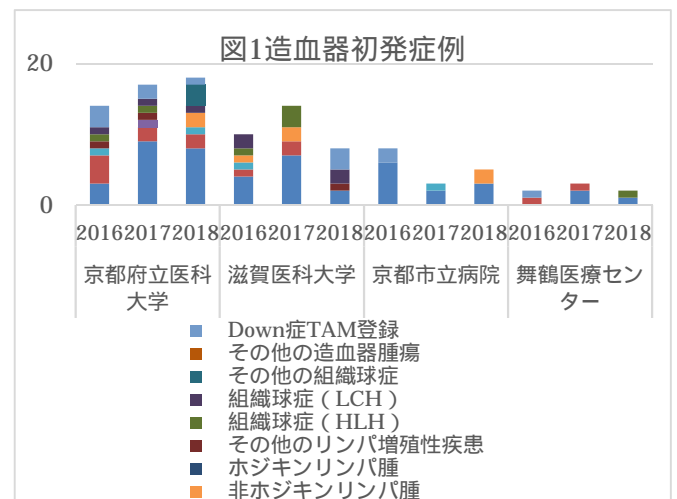
B. 研究方法

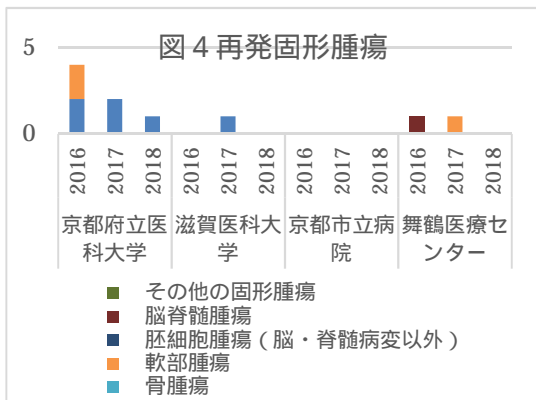
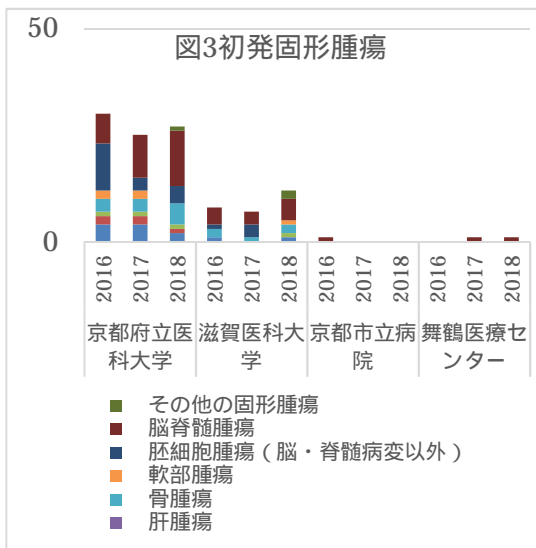
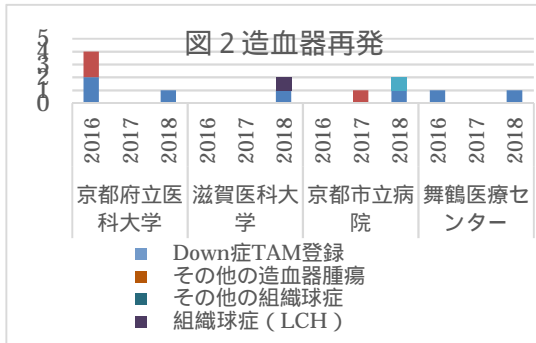
小児がん拠点病院である京都府立医科大学と小児がん連携施設である滋賀医科大学、京都市立病院、国立病院機構舞鶴医療センターの3施設と適切に診療分担体制が構築できているかを、2016年から2018年の診療実績の解析から考察した。

（倫理面への配慮）

該当なし。

C. 研究結果





小児がん拠点病院では、集学的治療を行う固形腫瘍および再発症例を中心に診療を行い、小児がん診療を行う小児がん連携施設では、治療法が確立し、血液腫瘍医のみでの診療が可能な初発血液腫瘍を中心に診療を行う体制が、年毎に確立してきていることが確認で

きた。

D. 考察

当院および小児がん連携施設においては、小児がん連携施設指定前から、小児がん診療の適正な役割分担が確立していたことが示された。今後もこの体制を維持強化して、地域の小児がん患者への適正医療を推進していく。結論
ご記入ください

E. 健康危険情報

該当せず。

F. 研究発表

1. 論文発表

- Naito Y, Mori J, Iehara T, et al. Pituitary apoplexy after cardiac surgery in a 14-year-old girl with Carney complex: a case report. *Endocr J.* 2019 Dec 25;66(12):1117-1123.
- Suzuki G, Ogata T, Iehara T, et al. Effective heart-sparing whole lung irradiation using volumetric modulated arc therapy: a case report. *J Med Case Rep.* 2019 Sep 2;13(1):277.
- Iehara T, Yoneda A, Yokota I, et al. Results of a prospective clinical trial JN-L-10 using image-defined risk factors to inform surgical decisions for children with low-risk neuroblastoma disease: A report from the Japan Children's Cancer Group Neuroblastoma Committee. *Pediatr Blood Cancer.* 2019 Nov;66(11):e27914. doi: 10.1002/pbc.27914.
- Iehara T, Yagyu S, Gotoh T, et al. A

prospective evaluation of liquid biopsy for detecting MYCN amplification in neuroblastoma patients. Jpn J Clin Oncol. 2019 Aug1;49(8):743-748.

5: Nakagawa N, Kikuchi K, Iehara T, et al. Mutations in the RAS pathway as potential precision medicine targets in treatment of rhabdomyosarcoma. Biochem Biophys Res Commun. 2019;512(3):524-530.

6: Nitta Y, Miyachi M, Tomida A, Iehara T, et al. Identification of a novel BOC-PLAG1 fusion gene in a case of lipoblastoma. Biochem Biophys Res Commun. 2019 Apr 23;512(1):49-52.

7: Takagi M, Ogawa C, Iehara T, et al. Phase I clinical study of oral olaparib in pediatric patients with refractory solid tumors: study protocol. BMC Pediatr. 2019 Jan 26;19(1):31.

8: Tomoyasu C, Kikuchi K, Iehara T, et al. OBP-801, a novel histone deacetylase inhibitor, induces M-phase arrest and apoptosis in rhabdomyosarcoma cells. Oncol Rep. 2019 Jan;41(1):643-649.

3. その他 該当せず

1. 学会発表

該当なし。

(発表誌名巻号・頁・発行年等も記入)

G. 知的財産権の出願・登録状況

(予定を含む)

1. 特許取得

該当せず

2. 実用新案登録

該当せず